

深く知り、味わう喜び

# 大人が楽しむアンデルセンの世界

二〇〇五年に生誕二〇〇年を迎えたアンデルセン。

デンマークの国民的文学者である彼の世界は実に多彩である。

童話に限らず、詩、小説、紀行文など多くの作品を楽しむことができる。

アンデルセンをもっと知るための出会い方を、福井さんが紹介する。

東海大学文学部北欧学科教授

## 福井信子

●ふくい・のぶこ 1954年北海道生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。専門はデンマーク語、北欧の児童文学。編訳書に『本当に読みたかったアンデルセン童話』『子どもに語る北欧の昔話』（ともに共訳）など。

大人になってから何らかのきっかけでアンデルセン童話に目が向き、小さいころに親しんだ有名なお話を改めて読み直すうちに、いろいろなことを考えたり感じたりするようになる。どうも今まで思っていた童話とはちがう、もういくつか読んでみようと思ひ進めていくうちに、やがてあまり知られてはいないけれど心にしみるお話に出会う。アンデルセ

ンの童話に人生の味わいを感じ、次にアンデルセンを知ること面白さを感じるようになる——アンデルセンとこのような付き合いができれば幸いだと思えます。アンデルセンを知る楽しみは、アンデルセンという人間やその作品を知るだけでなく、アンデルセンの生きた時代やデンマークという国を知る楽しみでもあり、実に多彩です。

その一端をご紹介したいと思います。**童話以外の楽しみ**  
アンデルセンの童話は明治の時代よりすべて日本語に訳されてきましたので、その気になれば誰でもアンデルセン童話の世界のずつと奥へと入って行けます。有名なお話には多くの訳があるほか絵本にもなってい

ますから、気に入ったものを選ぶことができます。

童話以外では、鈴木徹郎氏のライフワークとしての訳業『アンデルセン小説・紀行文全集』によって、『即興詩人』はもとより大学生時代に発表した『徒歩旅行』、キルケゴールが批評したことで知られる『ただのヴァイオリン弾き』『二人の男爵夫人』などの小説、『一詩人のバザール』『スウェーデン紀行』などの紀行文を味わうことができます。

ほかにはアンデルセンの膨大な数の詩のうちのごく一部が、山室静訳の『アンデルセン詩集』で紹介されています。そしてアンデルセンは自伝を書いていますので、邦訳の『わが生涯の物語』により、アンデルセンの人生についてアンデルセンの言葉で知ることができます。これだけでも十分な量で、私たちはアンデル

セン作品に直接出会える多くの機会に恵まれています。

一方で、これだけではもの足りないと感じるようになることも事実です。アンデルセンの生涯の概略を知るにつれ、いろいろな節目で話題とされる詩や戯曲、アンデルセンの評伝にしばしば引用される日記の一節、友人知人との手紙のやりとり、当時の著名な外国の作家との交流等々、もっと知りたいと思うことは雪だるま式に増えていきます。この段階ではデンマーク語の資料に頼らざるをえません。

アンデルセンがラテン語学校に送られる前に書いたという十代の作『ヴァイセンベアの盗賊たち』『アルフソル』が話題になると、本当にそれほど破天荒で教育のなさが見てとれるようなものだったのだろうかと思になります。

**尽きない研究テーマ**  
アンデルセンは様々なジャンルの作品を多数書き、頻りに旅行し、多